

# 今年の夏を思う！

2020. 7. 15

美幌町図書館長 竹花 史康

「春」「夏」「秋」「冬」の四季をしっかりと感じる事ができるのは、日本のすばらしいところです。また、その四季折々の風物詩が私達の生活を豊かにしてくれます。

北海道にはありませんが梅雨もある意味、夏の風物詩の一つです。しかし近年、豪雨を伴った梅雨前線が長く停滞し、大きな災害が多発しています。やはり、温暖化が原因なのでしょうが、日本各地で起きた洪水や土砂崩れなどのニュースを見るたびに、私たちは被害にあった人々や地域に心を痛み、自然に対する驚異を強く感じてしまいます。

江戸時代でも梅雨の時期には洪水の被害があったようで、その様子を蕪村が俳句に残しています。

五月雨や 大河を前に 家二軒 与謝 蕪村

(梅雨が降り続いて氾濫しそうなほど増水した大河のほとりに、ぼつんと心細く家が二軒寄り添っている。)

コロナ禍、自然災害等々、辛いことが続いていますが、何か心の支えになるものが欲しいものです。そんなときに、ふっと思い出したのが子規の夏の句です。

絶えず人 いこふ夏野の 石一つ 正岡 子規

(夏の野原の中に石が一つあります。それは、絶えずそこを通る人が、ちょっとそこに腰を下ろして憩うことのできるそんな石です。)

私どもの図書館も、“憩う石一つ”でありたいものです。

